

第3回 瀬戸内市国土利用計画審議会 意見要旨

開催日時	令和4年6月17日（金）14時00分～16時00分
開催場所	瀬戸内市役所2階大会議室
委員 意見要旨	<p>(1) 瀬戸内市における土地利用の取組状況について・・・資料1</p> <p>(2) 都市計画制度について・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料2, 資料3</p> <p>1. 議論の進め方について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初に都市計画の概要について一気に説明をされても頭に残らない。一つずつ丁寧に説明してもらわないと頭に入らないので、質問をすることができない。最初に市が一気に説明して、委員が理解できないまま議論を終わりにして、審議会を通したことにするというような手法は使わないようにしてほしい。 ・会議をオープンにすると言っていたが、発言内容をオブラートに包まないように記録してほしい。 ・最初から都市計画導入ありきで検討に入ったとは思っていない。都市計画とは何かという知識を得ながら、メリット・デメリットも理解した上で、都市計画導入の是非の検討をすべきである。現在は、都市計画を導入するかどうかの検討段階であるため、早急に都市計画導入の是非について決めなくてよいと思う。 ・市の立場としては、都市計画を導入した方が良いという考えを持っているのは事実である。これに対して、市内に住んでいる人の都市計画導入に関するご意見をいただき、まとめていく場が審議会だと考えている。 ・今後は、瀬戸内市の地図を示した上で、それぞれの地域の個性・特徴を明確にし、話を組み立てていってはどうか。逆算というプロセスを抜かなさるようにしたいので、次々回に都市計画導入の是非の議論に至るべきではないと思う。 ・大切な過程を飛ばして、結論を急いでいるように見える。都市計画はあくまで手段であるため、その前に市民が描くビジョンをしっかりと把握することが大切である。これから市長が行うタウンミーティングや、まちづくりフォーラムのアイデアカード、アンケート調査等で、市民の色々な意見を聞くことができるため、まずはそこを整理した上で、まちづくりの方向性をまとめる必要がある。

2. 都市計画について

- 古くなってしまった都市計画をそのまま瀬戸内市に導入するのではなく、どのような仕組みを導入する必要があるかについて検討すべきである。
- 都市計画によってできること・できないことなど、都市計画側から考えるのではなく、市内各地域の風景をどのようにしたいかを明確にした上で、それを実現するための都市計画の有用性などについて考えるべきである。
- フォーラムのアイデアカードには、「田舎すぎず、都会すぎない状況」という記載があったが、これが瀬戸内市のキーワードだと思う。都市計画を導入すると都市化が進むが、理想の風景から逆算して考えると田舎の風景が維持される。この都市と田舎のバランス感覚について、市民の方々の生活の中の快適・安心を考えながら、時間をかけて検討していくことが大事であると思う。
- 備前市や赤磐市のように、都市計画によって自治体が方向性を示しても、具体的な施策を組み立てて進めていくような動きが生まれにくいことが心配である。
- 先日のフォーラムでも色々ご提案はあったが、精神論は出てきても具体的な施策が見えてこない。良い方向性を示しても、それを実現できるかどうか懸念点である。
- 都市計画を導入することで、瀬戸内市の各地域の市民の生活が具体的にどのように改善されるかがわからない。アイデアカードの「変えていくべきこと、風景」等が、都市計画によってどのように改善されるかについて、わかりやすく資料にして頂けると良い。
- 都市計画の中にはいくつかメニューがあり、例えば、公園のネットワークや防災拠点のネットワークなど、市民が日常的に使いやすい場所をうまくつくることできる。都市計画の制度の全てを説明するのではなく、都市計画の中でも公園に着目するなど、ひとつひとつのメニューに分けて、良いところをピックアップしながら説明すると良い。

3. 土地利用の取組状況について

- 資料1の森林地域について、「森林における集積計画の作成」、「林業事業者への経営委託」と記載されているが、このような取り組みは本当に実施しているのか。
(事務局) ⇒まだ着手はしておらず、現在は、現地調査やヒアリング調査を進めている状況となっている。実際に取り組みを進めるにあたっての実施体制など、実現可能性も含めて検討段階となっている。しかし、瀬戸内市には林業の事業者がないため、林業を始める人がいないのは事実である。市の中でどのような手立てがあるのかについて検討している。
- 瀬戸内市にはお金になるような森林はほとんどないので、林業事業者への経営委託などは実現できないだろう。

・資料1の農業地域について「農振除外に関する相談対応」とあるが、実際に相談を受けているのか。

(事務局) ⇒不動産事業者などから頻繁に問い合わせがあり、随時相談を受けている。農振を除外することはできるのかという相談の問い合わせを受けた際には、除外できないということをお伝えしている。

・フォーラムのアイデアカードには、農地等ののどかな風景に価値を見出している意見が多い一方で、資料1では耕作放棄地対策や、後継者の確保が農業地域の課題として示されている。こうした課題に対して、市としてどのような対策を考えているのかお聞きしたい。

(事務局) ⇒耕作放棄地対策として、農業をやりたい人に向けて農地の情報を集めてマッチングできるような取組を行っているが、耕作放棄地が増えるスピードと農業者が集まるスピードが合わず、さらに条件の悪い農地が耕作放棄地になっていることから、思うようには進んでいない状況である。また、担当者は、新しい農業の後継者を増やしていくにあたって、農業以外の魅力も必要であると言っている。こうした課題に対して、市として何ができるかについて検討していきたい。

4. 景観について

・景観計画について、保全の面では多々言及があるが、活用の面でどのように考えられているのかについてお聞きしたい。

(事務局) ⇒景観の活用については、一定規模の開発に対して審査するにとどまっている現状である。景観計画の基本方針には景観まちづくりという項目があるが、市民の景観まちづくりの担い手づくりは進んでいない状況となっている。景観は活用しないと保全できないため、民間の方と協働で景観を保全するにあたって何ができるかについて検討していきたい。

・牛窓の海辺の風景についてアイデアカードに多く書かれていたが、牛窓の風景が、本計画によってどのような影響を受けるのかについてお聞きしたい。

(事務局) ⇒牛窓には移住者が多くいるが、移住者は牛窓の景観が良いから牛窓を移住先に選んだという側面がある。そのような方々と牛窓の景観をどのように保全していくかについて、現在進めている牛窓のまちなか再生の取組などを進めながら民間の方と協働で検討していきたい。

5. 交通について

・瀬戸内市の人口を増やしていくにあたって、移住者を増やしていくことは重要であるが、移住者は知らない土地に来ることはないと思うので、来訪者の交通利便性を確保することが重要だと思う。また、来訪者にどれだけ魅力を伝えられるかが大事だと思う。

(事務局) ⇒都市部から瀬戸内市へ来られる方は車を持っていないため、交通の不便によって一定の制約を受けており、これは移住者が移住先を検討する上でも課題になってくる。こうした課題はすぐには解決することは難しいが、ライフスタイルが多様化していく中

で、瀬戸内市のような都市周辺部に住みたい人も増加すると考えられるため、来訪者の交通利便性の確保については引き続き検討していきたい。

6. 国土利用計画について

- ・国土利用計画をつくることは良いと思うが、ただつくるだけでは現状は変わらない。例えば、企業を呼び込んで農業財団をつくることで、農振が外れない耕作放棄地を活用するなど、まちを変えていくような具体的な施策が目に見えるようなれば良いと思う。
- ・国土利用計画の究極の目標は、今住んでいる人が今後も住みたい、あるいは市外へ出ていく人が帰ってきたい、外の人が住みたいと思うまちをつくる仕組みをつくることだと考えている。

7. タウンミーティングについて

- ・タウンミーティングでも市民に意見を聞くと思うが、都市計画導入の是非について聞かれてもわからないと思う。導入した場合、道路や農地がどのように変わるか、あるいは何が制限されるかについて明確に示していただけると良いと思う。また、都市計画を導入しない場合のメリット・デメリットも示していただけると良いと思う。
- ・タウンミーティングの際には、移住者の方に瀬戸内市を選んだ決め手や、改善すべき点を聞いてほしい。フォーラムのアイデアカードの意見を市内・市外で分けているが、移住者は市内の方でも市外的な意見を持っているため、移住者の方の意見は重要である。

以上